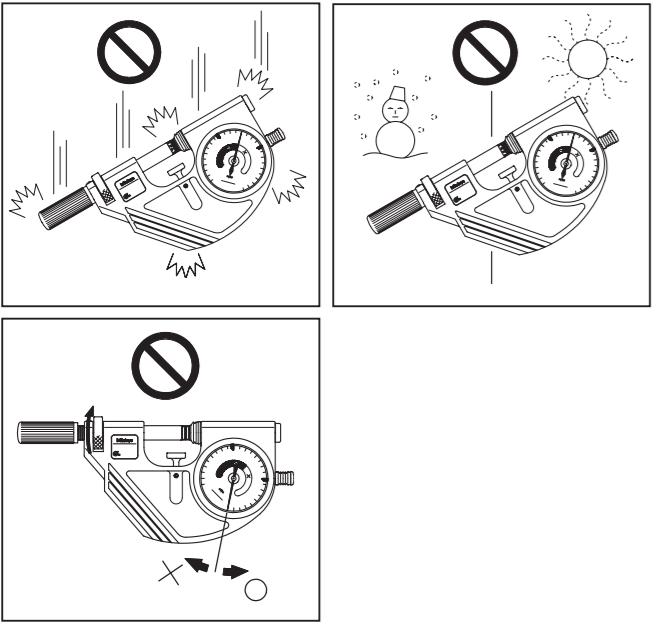


指示マイクロメータ、スナップメータ



安全に関する注意

商品のご使用に当たっては、記載の仕様・機能・使用上の注意に従ってご使用ください。それ以外でご使用になりますと安全性を損なうおそれがあります。

海外移転に関するご注意

本製品は、「国外為替及び外国貿易法」の規制対象品です。本製品やその技術を海外移転する場合は、事前に弊社にご相談ください。



本器の測定面は鋭利に尖っています。身体を傷つけないよう、取り扱いには十分気を付けてください。

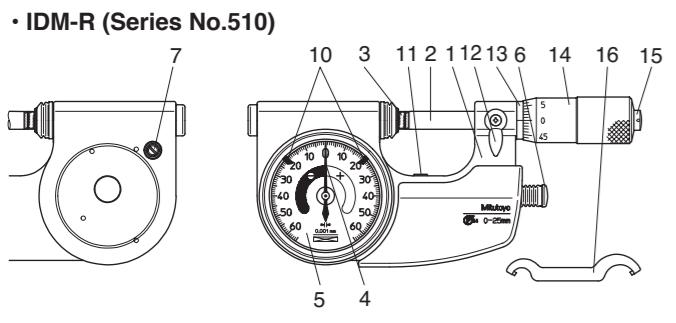
VORSICHT

WICHTIG

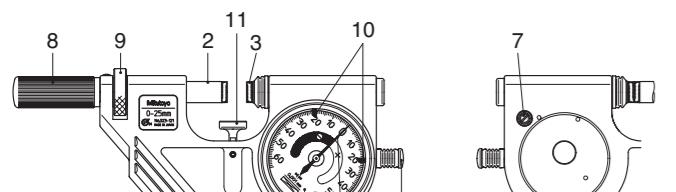
- 分解はしないでください。
- 急激な温度変化のある場所での使用、保管は避けてください。また、ご使用の際は室温に十分なままでください。
- 湿気やほりの多い場所での保管は避けてください。
- クーラントなどの飛沫が直接かかる場所で使用される場合は、使用後に防錆処理を行ってください。錆は故障の原因になります。
- 落としなどの急なショックを与えた後、過度の力を加えないでください。
- スタンダードに取り付けで使用する場合は、フレームの肉厚部を締付けるようにしてください。所定以外の箇所を強く締め付けると、平行度や指示の精度が悪くなることがあります。
- 指針が示す指示値が目盛の範囲を超えてしまったら、それ以上スピンドルを前進させないでください。インジケータ部の破損の原因となります。
- 測定前には必ず基点合わせを行ってください。

以下の文章は左のイラストと合わせて読みください。

[1] 各部の名称

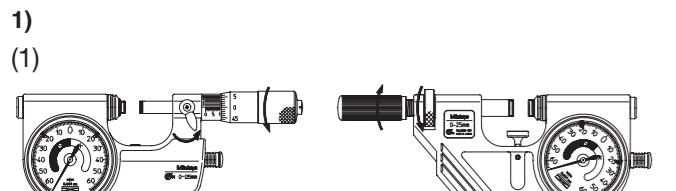


• IDM-R (Series No.510)

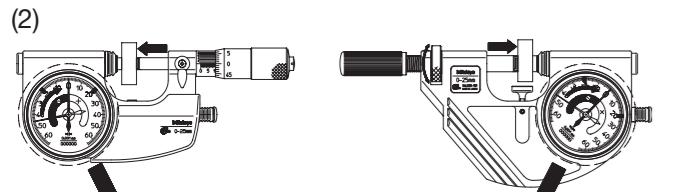


• PSM-R (Series No.523)

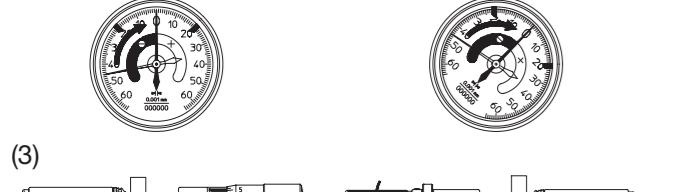
[2]



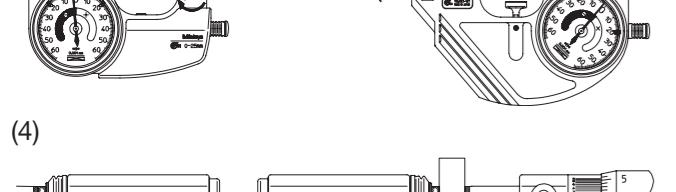
(1)



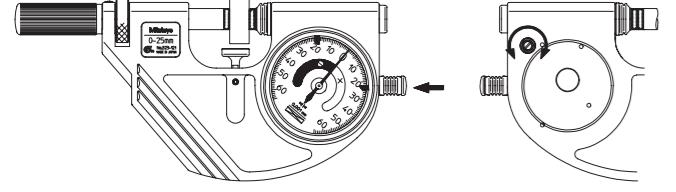
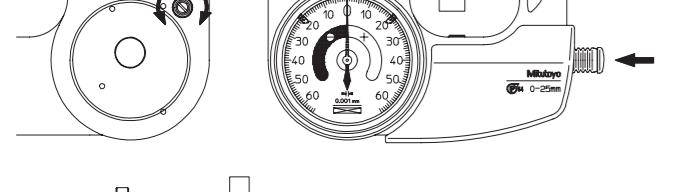
(2)



(3)



(4)



[2] 基点合わせ

- » これは PSM-R/Series 523 の部品名称を示します。
- 重要**
- 本器の基点合わせは、定期検査を受けている基点合わせ用のゲージブロック、マイクロメータ基準棒、または測定物専用のマスターゲージをご使用ください。
 - 基点合わせ前に、使用するゲージと本器の測定面をきれいに拭いてください。
 - 基点合わせ時は、スピンドルが前進する方向で移動させクランプしてください。
 - 基点合わせは測定時と同じ姿勢、条件で行ってください。
 - 目盛板は約 10 目盛分しか回転できません。この限度を超えてゼロ調整ツマミを過度の力で回さないでください。

注記

- 製作寸法が $12.5^{+0.08}$ のように公差が一方によっている場合は、公差の中央値がゼロ自盛近くになるように 12.54 ± 0.04 と変更して公差を設定してください。
- シンプル《リードナット》の回転は重く設定されています。
- インジケータ部の基点合わせ

 - (1) クランプ《クランプキャップ》をゆるめシンプル《リードナット》を回転させて、基点合わせに用いるゲージがはさめる様になるまでスピンドルを後退させます。
 - (2) ゲージをスピンドルとアンビルの測定定面ではさま、指針がゼロの位置になる様にシンプル《リードナット》の回転させてスピンドルの位置を調整します。
 - (3) クランプ《クランプキャップ》を締め、スピンドルを固定します。
 - (4) 押ボタンを押します。指針がゲージの指示値を示します。最後に、マイナスドライバーを用いてゼロ調整ツマミを回転させ、目盛板の位置を合わせます。(目盛板は両方向に約 10 目盛ずつ回転できます)

- マイクロメータ部の基点合わせ (IDM-R/Series 510 のみ)

 - (1) ゼロ調整ツマミをマイナスドライバーで回転させ、目盛板の 0 の位置を真正に合わせます。指針を目盛板の 0 の位置に合わせたとき、シンプルの外筒との基線と完全に一致していない場合には次のように基点を調整してください。
 - a) 差が $\pm 0.01\text{mm}$ 程度以下の場合は、指針を目盛板のゼロ線に外筒の基線を合わせます。
 - b) 差が $\pm 0.01\text{mm}$ 程度以上の場合は、指針を目盛板のゼロ線に外筒の基線を合わせます。そして、との様に止めねじをスパンナで締めつけスピンドルを固定します。なお、わざかな調整は前記 a) の方法で基点合わせです。

[3] 測定方法

- 押ボタンを押して、測定面間に測定物を挿入し、基点合わせのときと同じ姿勢、条件で測定してください。

[4] 仕様

- インジケータの指示バラツキ : $0.4\text{ }\mu\text{m}$
- インジケータの指示誤差 : $1\text{ }\mu\text{m}$
- インジケータの指示範囲 : $\pm 0.06\text{mm}$
- インジケータの目盛 : 0.001mm
- 測定力 : $5 \sim 10\text{N}$
- 使用温度範囲 : $5^\circ\text{C} \sim 40^\circ\text{C}$
- 保存温度範囲 : $-10^\circ\text{C} \sim 60^\circ\text{C}$

[5] 使用環境について

- 本器の保護等級は、IP54 (IEC 規格による) です。噴流が直接かかる場所や水没する場所では、クーラント等の侵入を防ぎませんので、使用しないでください。

参考

- 規格内容 (IP54 保護等級)
 - ・ 施設内侵入 (等級 5) : 装置の機能に有害な影響があるほど異物は侵入しない。
 - ・ 水の侵入 (等級 4) : いかなる方向からの水の飛沫を受けても、装置に有害な影響があるほど水は侵入しない。

Mitutoyo Corporation
Kawasaki, Japan
http://www.mitutoyo.co.jp

Feinzeigermessschrauben, Passameter

J

D

E

NL

F

Sicherheitsmaßnahmen

Um die Sicherheit des Anwenders zu gewährleisten, benutzen Sie dieses Gerät entsprechend den Hinweisen und Spezifikationen in dieser Bedienungsanleitung.

Hinweise zu Exportbestimmungen

Wir verpflichten sich, keine Handlungen auszuführen, die direkt oder indirekt, gegen irgendeine Gesetz der USA, Japans oder Ihres Landes oder gegen sonstige internationale Verträge in Bezug auf Export oder Re-Export von Wirtschaftsgütern verstößen.

VORSICHT

PRECAUCION

BELANGRIJK

- Das Gerät darf nicht auseinander genommen werden.
- Benutzen und lagern Sie das Gerät nicht an Orten, an denen es plötzliche Temperaturschwankungen ausgesetzt ist. Vor der Benutzung muss sich das Gerät an die Raumtemperatur anpassen.
- Die Geometrie des Geräts darf nicht an Orten, an denen es Staub und Feuchtigkeit ausgesetzt ist.
- Falls die Bügelmessschraube beim Einsatz Kühlflüssigkeiten oder ähnlichen direkt ausgesetzt ist, treffen Sie nach dem Gebrauch Rostschutzmaßnahmen. Rost verursacht Fehlfunktionen.
- Wenden Sie keine übermäßige Kraft auf die Bügelmessschraube an und lassen Sie sie nicht fallen.
- Bei der Befestigung des Gerätes an einem Halter muss die Klemmung am breiteren Teil des Halters erfolgen. Wenn andere Bereiche der Bügelmessschraube festgeklemmt werden, kann dies die Stabilität der Messung und die Parallelität der Meßflächen beeinträchtigen.
- Drehen Sie die Spindel nicht weiter, wenn sich der Zeiger ausserhalb des Anzeigebereichs befindet. Dies kann zur Beschädigung der Anzeige führen.
- Ob vor der Messung muss der Nullpunkt eingestellt werden.

Beim Lesen dieses Textes auf die Abbildungen links Bezug nehmen.

[1] Teilebezeichnung

- | | | |
|--|--|-------------------------|
| 1. フレーム | 2. スピンドル | 3. アンビル |
| 4. 指針 | 5. 目盛板 | 6. 押しボタン |
| 7. ゼロ調整ツマミ | 8. クランプキャップ ¹⁾ | 9. リードナット ¹⁾ |
| 10. リミット針 : 公差の位置を設定します。任意の位置に指で動かせます。 | 11. ワークストップ ¹⁾ : 測定物を支持します。任意の位置に六角穴付き止めネジ (M3) で固定します。 (IDM-R / Series 510 は別売り) | 12. クランプ ²⁾ |
| 13. 外筒 | 14. シンブル ²⁾ | 15. 止めネジ ²⁾ |
| 16. スパナ ²⁾ | 17. ワークスチップ ¹⁾ | 18. クランプ ²⁾ |
- ¹⁾ PSM-R/Series 523のみ
²⁾ 1: IDM-R/Series 523のみ
2: nur für IDM-R/Serie 510.

以下の文章は左のイラストと合わせて読みください。

[2] 基点合わせ

» これは PSM-R/Series 523 の部品名称を示します。

重要

- 本器の基点合わせは、定期検査を受けている基点合わせ用のゲージブロック、マイクロメータ基準棒、または測定物専用のマスターゲージをご使用ください。
- 基点合わせ前に、使用するゲージと本器の測定面をきれいに拭いてください。
- 基点合わせ時は、スピンドルが前進する方向で移動させクランプしてください。
- 基点合わせは測定時と同じ姿勢、条件で行ってください。
- 目盛板は約 10 目盛分しか回転できません。この限度を超えてゼロ調整ツマミを過度の力で回さないでください。

注記

- 製作寸法が $12.5^{+0.08}$ のように公差が一方によっている場合は、公差の中央値がゼロ自盛近くになるように 12.54 ± 0.04 と変更して公差を設定してください。
- シンプル《リードナット》の回転は重く設定されています。

1) インジケータ部の基点合わせ

- (1) クランプ《クランプキャップ》をゆるめシンプル《リードナット》を回転させて、基点合わせに用いるゲージがはさめる様になるまでスピンドルを後退させます。
- (2) ゲージをスピンドルとアンビルの測定定面ではさま、指針がゼロの位置になる様にシンプル《リードナット》の回転させてスピンドルの位置を調整します。
- (3) クランプ《クランプキャップ》を締め、スピンドルを固定します。
- (4) 押ボタンを押します。指針がゲージの指示値を示します。最後に、マイナスドライバーを用いてゼロ調整ツマミを回転させ、目盛板の位置を合わせます。(目盛板は両方向に約 10 目盛ずつ回転できます)

2)マイクロメータ部の基点合わせ (IDM-R/Series 510 のみ)

- (1) ゼロ調整ツマミをマイナスドライバーで回転させ、目盛板の 0 の位置を真正に合わせます。指針を目盛板の 0 の位置に合わせたとき、シンプルの外筒との基線と完全に一致していない場合には次のように基点を調整してください。
 - a) 差が $\pm 0.01\text{mm}$ 程度以下の場合は、指針を目盛板のゼロ線に外筒の基線を合わせます。
 - b) 差が $\pm 0.01\text{mm}$ 程度以上の場合は、指針を目盛板のゼロ線に外筒の基線を合わせます。そして、との様に止めねじをスパンナで締めつけスピンドルを固定します。なお、わざかな調整は前記 a) の方法で基点合わせです。

3) 測定方法

- 押ボタンを押して、測定面間に測定物を挿入し、基点合わせのときと同じ姿勢、条件で測定してください。

4) 仕様

- インジケータの指示バラツキ : $0.4\text{ }\mu\text{m}$
- インジケータの指示誤差 : $1\text{ }\mu\text{m}$
- インジケータの指示範囲 : $\pm 0.06\text{mm}$
- インジケータの目盛 : 0.001mm
- 測定力 : $5 \sim 10\text{N}$
- 使用温度範囲 : $5^\circ\text{C} \sim 40^\circ\text{C}$
- 保存温度範囲 : $-10^\circ\text{C} \sim 60^\circ\text{C}$

5) 使用環境について

- 本器の保護等級は、IP54 (IEC 規格による) です。噴流が直接かかる場所や水没する場所では、クーラント等の侵入を防ぎませんので、使用しないでください。

参考

- 規格内容 (IP54 保護等級)
 - ・ 施設内侵入 (等級 5) : 装置の機能に有害な影響があるほど異物は侵入しない。
 - ・ 水の侵入 (等級 4) : いかなる方向からの水の飛沫を受けても、装置に有害な影響があるほど水は侵入しない。

Mitutoyo Corporation
Kawasaki, Japan
http://www.mitutoyo.co.jp

Micrómetro indicativo (Pasa/NoPasa)

E

NL

F

Precauciones de Seguridad

Para la seguridad del operador, use este instrumento conforme a las instrucciones y especificaciones que se dan en este Manual de Usuario.

Nota sobre ley de exportación

Usted debe de aceptar no cometer acto que, directa o indirectamente, viole cualquier ley o regulación de Japón o su país, o cualquier otro tratado internacional, relacionado con exportación o re-exportación de cualquier productos.

El borde de la punta de contacto de este instrumento es filoso. Manejelo con mucha precaución para que no se lastime.

PRECAUCION

BELANGRIJK

- No desejar este instrumento.
- No use ni almaceñe este instrumento en un lugar donde la temperatura cambie repentinamente. Antes de usar el instrumento, permítale que se estabilice a la temperatura del área de trabajo.
- No almaceñe este instrumento en un lugar expuesto al polvo y humedad.
- Si este instrumento se usa en un lugar expuesto a la salpicadura del refrigerante, refiérase a las instrucciones de anticorrosión de acuerdo con el uso. La corrosión puede causar problemas.
- No aplique una fuerza excesiva a este instrumento ni lo deje caer.
- Para montar este instrumento al soporte, sujetelo apretando la parte gruesa del cuerpo principal. Se debe evitar apretar otras partes ya que puede deteriorar la estabilidad de mediciones y el paralelismo de los ejes.
- Al usar este instrumento, no lo deje caer ni lo golpee.
- Si el instrumento se cae, verifique si el husillo se ha dañado.
- Para evitar que el husillo se dañe, no lo deje caer ni golpee.
- Observe las ilustraciones de la izquierda mientras lee las instrucciones.

Observe las ilustraciones de la izquierda mientras lee las instrucciones.

[1] Nombre y Función de Cada Parte

- | | | | |
|--|---|---------|----------|
| 1. Cuerpo principal | 2. Husillo | 3. Tapa | 4. Aguja |
| 5. Carátula | 6. Botón de retroceso del topo | | |
| 7. Tornillo de ajuste de cero | 8. Manija de sujeción del husillo ¹⁾ | | |
| 9. Freno del husillo ¹⁾ | | | |
| 10. Indicador de tolerancia: Fija el rango de tolerancia. Este indicador de tolerancia se puede mover a una posición arbitraria con los dedos. | | | |
| 11. Soporte para piezas< | | | |

Indicating Micrometer, Dial Snap Meter

Micrometro con comparatore e pulsante di richiamo

Safety Precautions

To ensure operator safety, use this instrument in conformance with the directions and specifications given in this User's Manual.



Export Control Compliance

The goods, technologies or software described herein may be subject to National or International, or Japanese Export Controls. To export directly or indirectly such matter without due approval from the appropriate authorities may therefore be a breach of export control regulations and the law.

The edge of the contact point of this instrument is sharp. Handle it with great care to avoid injury.

IMPORTANT

- Do not disassemble this instrument.
- Do not use and store this instrument at sites where the temperature will change abruptly. Prior to use, thermally stabilize the instrument buffer for about 20 minutes.
- Do not store this instrument at sites where it will be exposed to dust and moisture.
- If this instrument is used at sites where it will be exposed to direct splash from coolant or the like, take corrosion prevention measures after use. Corrosion will cause the trouble.
- Do not apply excessive force to the spindle or drop it.
- When mounting the instrument on the stand, hold it by clamping the thick portion of the frame. Clamping other portions than specified should be avoided as it may degrade the stability of measurements and parallelism of measuring faces.
- Do not feed the spindle further if the pointer is out of the indication range on the dial. Doing so may cause the failure of the indicator part of this instrument.
- Be sure to perform the zero point adjustment before measurement.

Please refer to the illustrations on the reverse side while reading this manual.

[1] Name and Function of Each Part

1. Frame	2. Spindle	3. Anvil
4. Pointer	5. Dial	6. Anvil retraction button
7. Zero adjustment screw		8. Spindle clamp handle ¹
9. Spindle lead nut ²		
10. Limit hands	Set the tolerance range. These limit hands can be moved to an arbitrary position by fingers.	
11. Work-stopper ³	Supports the workpiece. Fix this work-stopper at an arbitrary position using the hex-set screw (M3). (This work-stopper must be purchased separately for the IDM-R/Series No.510.)	
12. Clamp ²	13. Sleeve ²	14. Thimble ²
15. Setscrew ²	16. Wrench ²	
1: only for PSM-R/Series No.523.		
2: only for IDM-R/Series No.510.		

[2] Zero Point Adjustment

Read the sentences below choosing the appropriate part name in the parentheses [] according to the instrument used.

IMPORTANT

- Be sure to use the dedicated gauge block for the zero point adjustment (all of these should be inspected periodically), standard for micrometer, or dedicated master gages for the workpiece to perform the zero point adjustment of this instrument.
- Wipe off the measuring faces of the gage used and the instrument cleanly before performing zero point adjustment.
- When setting the zero point, clamp the spindle in place while moving it in the forward direction.
- Perform zero point adjustment in the same posture and conditions as the measurement.
- The dial can be turned up to approximately 10 graduations in both directions. Do not turn the zero adjustment screw forcibly beyond this range.

NOTE

- If the tolerance for the nominal size is given like $12.5^{+0.08}_{-0.04}$, set the tolerance as 12.54 ± 0.04 so that the center value of the tolerance comes to the zero point on the dial.
- Note that the turning of the [thimble/spindle lead nut] is set tight.

1) Zero point adjustment of the indicator part.

- Loosen the [clamp/spindle clamp handle], turn the [thimble/spindle lead nut], then retract the spindle so that the gage used for the zero point adjustment can be put in.
- Hold the gage with the measuring faces of the spindle and anvil, then adjust the spindle position so that the pointer points to the zero point by turning the [thimble/spindle lead nut].
- When adjusting the spindle position, always move the spindle so as to narrow the measuring range.
- Tighten the [clamp/spindle clamp handle] to fix the spindle.
- Press the anvil retraction button, then the pointer points to the indication value of the gage. Finally, adjust the dial position by turning the zero adjustment screw using the screwdriver. (The dial can be turned up to approximately 10 graduations in both directions.)

2) Zero point adjustment of the micrometer part.

- (Read this section if the IDM-R/Series No.510 is used.)
- Rotate the zero adjustment screw with a screw driver to set the zero-point on the dial at the 12 o'clock position.
 - Turn the spindle so that the pointer indicates zero on the dial. If the zero-line on the spindle does not coincide with the reference line on the sleeve here, make zero point adjustment as follows:
 - If the deviation is $\pm 0.01\text{mm} (\pm 0.004\text{mm})$ or less
Rotate the sleeve with a wrench to set its reference line to be align with the zero-line on the thimble.
 - If the deviation is more than $\pm 0.01\text{mm} (\pm 0.004\text{mm})$
Loosen the setscrew with the wrench, then detach the thimble to set its zero-line to be align with the reference line on the sleeve. After this setting, attach the thimble by tightening the setscrew with the wrench. If a fine adjustment is needed above, make zero point adjustment in the same way as the procedure a) described above.

[3] Measurement Method

Press the anvil retraction button, insert the workpiece between the measuring faces, then perform measurement in the same posture and conditions as the zero point adjustment.

[4] Specifications

Dispersion of indication	: $0.4\mu\text{m} (\pm 0.0002\text{")}$
Indication error	: $1\mu\text{m} (\pm 0.0005\text{")}$
Indication range	: $\pm 0.06\text{mm} (\pm 0.023\text{")}$
Resolution	: $0.001\text{mm} (\pm 0.0005\text{")}$
Measuring force	: $5 \sim 10\text{N}$
Operating temperature	: $5^\circ\text{C} \sim 40^\circ\text{C}$
Storage temperature	: $-10^\circ\text{C} \sim 60^\circ\text{C}$

[5] Environmental Condition

The water protection level of this instrument is IP-54 (IEC). However, do not use this instrument at sites where it will be directly subjected to splash of water (coolant) or sunk in coolant.

TIP

- Explanation of IP54:
 • Protection against dust (class 5): Dust must not penetrate to the extent that is adversely affects the equipment operation.
 • Protection against splash water (class 4): Water splash from any direction against the equipment must not adversely affect its operation.

Mitutoyo Corporation
Kawasaki, Japan
http://www.mitutoyo.co.jp

Micrometro con comparatore e pulsante di richiamo

To ensure operator safety, use this instrument in conformance with the directions and specifications given in this User's Manual.



Export Control Compliance

The goods, technologies or software described herein may be subject to National or International, or Japanese Export Controls. To export directly or indirectly such matter without due approval from the appropriate authorities may therefore be a breach of export control regulations and the law.

The edge of the contact point of this instrument is sharp. Handle it with great care to avoid injury.

IMPORTANT

- Do not disassemble this instrument.
- Do not use and store this instrument at sites where the temperature will change abruptly. Prior to use, thermally stabilize the instrument buffer for about 20 minutes.
- Do not store this instrument at sites where it will be exposed to dust and moisture.
- If this instrument is used at sites where it will be exposed to direct splash from coolant or the like, take corrosion prevention measures after use. Corrosion will cause the trouble.
- Do not apply excessive force to the spindle or drop it.
- When mounting the instrument on the stand, hold it by clamping the thick portion of the frame. Clamping other portions than specified should be avoided as it may degrade the stability of the measurements and parallelism of the measuring faces.
- Do not feed the spindle further if the pointer is out of the indication range on the dial. Doing so may cause the failure of the indicator part of this instrument.
- Be sure to perform the zero point adjustment before measurement.

Please refer to the illustrations on the reverse side while reading this manual.

[1] Name and Function of Each Part

1. Frame	2. Spindle	3. Anvil
4. Pointer	5. Dial	6. Anvil retraction button
7. Zero adjustment screw		8. Spindle clamp handle ¹
9. Spindle lead nut ²		
10. Limit hands	Set the tolerance range. These limit hands can be moved to an arbitrary position by fingers.	
11. Work-stopper ³	Supports the workpiece. Fix this work-stopper at an arbitrary position using the hex-set screw (M3). (This work-stopper must be purchased separately for the IDM-R/Series No.510.)	
12. Clamp ²	13. Sleeve ²	14. Thimble ²
15. Setscrew ²	16. Wrench ²	
1: only for PSM-R/Series No.523.		
2: only for IDM-R/Series No.510.		

[2] Zero Point Adjustment

Read the sentences below choosing the appropriate part name in the parentheses [] according to the instrument used.

IMPORTANT

- Be sure to use the dedicated gauge block for the zero point adjustment (all of these should be inspected periodically), standard for micrometer, or dedicated master gages for the workpiece to perform the zero point adjustment of this instrument.
- Wipe off the measuring faces of the gage used and the instrument cleanly before performing zero point adjustment.
- When setting the zero point, clamp the spindle in place while moving it in the forward direction.
- Perform zero point adjustment in the same posture and conditions as the measurement.
- The dial can be turned up to approximately 10 graduations in both directions. Do not turn the zero adjustment screw forcibly beyond this range.

NOTE

- If the tolerance for the nominal size is given like $12.5^{+0.08}_{-0.04}$, set the tolerance as 12.54 ± 0.04 so that the center value of the tolerance comes to the zero point on the dial.
- Note that the turning of the [thimble/spindle lead nut] is set tight.

1) Zero point adjustment of the indicator part.

- Loosen the [clamp/spindle clamp handle], turn the [thimble/spindle lead nut], then retract the spindle so that the gage used for the zero point adjustment can be put in.
- Hold the gage with the measuring faces of the spindle and anvil, then adjust the spindle position so that the pointer points to the zero point by turning the [thimble/spindle lead nut].
- When adjusting the spindle position, always move the spindle so as to narrow the measuring range.
- Tighten the [clamp/spindle clamp handle] to fix the spindle.
- Press the anvil retraction button, then the pointer points to the indication value of the gage. Finally, adjust the dial position by turning the zero adjustment screw using the screwdriver. (The dial can be turned up to approximately 10 graduations in both directions.)

2) Zero point adjustment of the micrometer part.

- (Read this section if the IDM-R/Series No.510 is used.)
- Rotate the zero adjustment screw with a screw driver to set the zero-point on the dial at the 12 o'clock position.
 - Turn the spindle so that the pointer indicates zero on the dial. If the zero-line on the spindle does not coincide with the reference line on the sleeve here, make zero point adjustment as follows:
 - If the deviation is $\pm 0.01\text{mm} (\pm 0.004\text{mm})$ or less
Rotate the sleeve with a wrench to set its reference line to be align with the zero-line on the thimble.
 - If the deviation is more than $\pm 0.01\text{mm} (\pm 0.004\text{mm})$
Loosen the setscrew with the wrench, then detach the thimble to set its zero-line to be align with the reference line on the sleeve. After this setting, attach the thimble by tightening the setscrew with the wrench. If a fine adjustment is needed above, make zero point adjustment in the same way as the procedure a) described above.

[3] Measurement Method

Press the anvil retraction button, insert the workpiece between the measuring faces, then perform measurement in the same posture and conditions as the zero point adjustment.

[4] Specifications

Dispersion of indication	: $0.4\mu\text{m} (\pm 0.0002\text{")}$
Indication error	: $1\mu\text{m} (\pm 0.0005\text{")}$
Indication range	: $\pm 0.06\text{mm} (\pm 0.023\text{")}$
Resolution	: $0.001\text{mm} (\pm 0.0005\text{")}$
Measuring force	: $5 \sim 10\text{N}$
Operating temperature	: $5^\circ\text{C} \sim 40^\circ\text{C}$
Storage temperature	: $-10^\circ\text{C} \sim 60^\circ\text{C}$

[5] Environmental Condition

The water protection level of this instrument is IP-54 (IEC). However, do not use this instrument at sites where it will be directly subjected to splash of water (coolant) or sunk in coolant.

TIP

- Explanation of IP54:
 • Protection against dust (class 5): Dust must not penetrate to the extent that is adversely affects the equipment operation.
 • Protection against splash water (class 4): Water splash from any direction against the equipment must not adversely affect its operation.

Mitutoyo Corporation
Kawasaki, Japan
http://www.mitutoyo.co.jp

Indicating Micrometer, Dial Snap Meter

To ensure operator safety, use this instrument in conformance with the directions and specifications given in this User's Manual.



Export Control Compliance

The goods, technologies or software described herein may be subject to National or International, or Japanese Export Controls. To export directly or indirectly such matter without due approval from the appropriate authorities may therefore be a breach of export control regulations and the law.

The edge of the contact point of this instrument is sharp. Handle it with great care to avoid injury.

IMPORTANT

- Do not disassemble this instrument.
- Do not use and store this instrument at sites where the temperature will change abruptly. Prior to use, thermally stabilize the instrument buffer for about 20 minutes.
- Do not store this instrument at sites where it will be exposed to dust and moisture.
- If this instrument is used at sites where it will be exposed to direct splash from coolant or the like, take corrosion prevention measures after use. Corrosion will cause the trouble.
- Do not apply excessive force to the spindle or drop it.
- When mounting the instrument on the stand, hold it by clamping the thick portion of the frame. Clamping other portions than specified should be avoided as it may degrade the stability of the measurements and parallelism of measuring faces.
- Do not feed the spindle further if the pointer is out of the indication range on the dial. Doing so may cause the failure of the indicator part of this instrument.
- Be sure to perform the zero point adjustment before measurement.

Please refer to the illustrations on the reverse side while reading this manual.